



2026 SUPER FORMULA RACE REPORT

AUTOPOLIS

Rd.3

4.25[sat] - 26[sun]

[place] オートポリス (大分県日田市)

[weather] **sat** 晴れのち曇り **sun** 雨

[spectators] 14,600人 (**sat** 6,600人 **sun** 8,000人)

Rd.1-2	MOBILITY RESORT MOTEGI	APR 3 - 5
Rd.3	AUTOPOLIS	APR 25 - 26
Rd.4-5	SUZUKA CIRCUIT	MAY 22 - 24
Rd.6-7	FUJI SPEEDWAY	JUL 17 - 19
Rd.8	Sportsland SUGO	AUG 8 - 9
Rd.9-10	FUJI SPEEDWAY	OCT 9 - 11
Rd.11-12	SUZUKA CIRCUIT	NOV 20 - 22

決勝レースは悪天候のため中止。
予選では2台ともQ2進出は叶わなかったが、
確実にステップを踏んだ週末を過ごす。



2026年全日本スーパーフォーミュラ選手権 Round3「九州大会／AUTOPOLIS」が4月25日（土）・26日（日）にオートポリスで行われた。KDDI TGMGP TGR-DCは、小林可夢偉が予選19番手、小林利徠斗が予選16番手につけて決勝での追い上げを目指したが、決勝レースは強い雨と霧の影響で、1周目で赤旗中断。天候の回復が見込めないため、レースは中止となった。

RESULTS

Round 3

予選 19位 決勝 中止

Rd. 3

QUALIFYING 1

P10(B Gr) 1'27.923

QUALIFYING 2

-

QUALIFYING 3

-

RACE

-

7 小林 可夢偉 | KAMUI KOBAYASHI

KDDI TGMGP TGR-DC

RESULTS

Round 3

予選 16位 決勝 中止

Rd. 3

QUALIFYING 1

P8(A Gr) 1'27.773

QUALIFYING 2

-

QUALIFYING 3

-

RACE

-

28 小林 利徠斗 | RIKUTO KOBAYASHI

KDDI TGMGP TGR-DC

QUALIFYING

天候:晴れ | 気温:20°C | 路面温度:32°C

今回は1大会1レース制のフォーマットで開催され、土曜日は午前中に90分のフリー走行1回目と、午後に予選が行われる。なお、通常はQ2で予選順位が全て決まるが、今回は5年ぶりにQ3「SUPER POLE QUALIFYING Supported by YOKOHAMA TIRE」が復活。Q2の上位5台がQ3へ進出してポールポジションをかけて争った。

フリー走行1回目からセッティングを仕上げていき、予選Q1Aグループに出走した小林利徠斗は、トップ6も十分に狙える走りをみせたが、ライバルも手強く、わずか0.051秒差の8番手に終わり、Q2進出は叶わず。一方、Bグループの小林可夢偉は、フリー走行1回目での感触をもとに予選に向けてセッティングを変更したが、裏目に出るかたちとなった。タイムを短縮することができず、Q1Bグループ10番手でQ1敗退となった。


RACE

天候:雨 | 気温:14°C | 路面温度:17°C

決勝日は朝から雨模様となり、午前中のフリー走行ではウエット路面でのセッティング確認を実施。小林可夢偉は前大会まで良かったセッティングを試すもここでは噛み合わず23番手。小林利徠斗はウエット路面の経験を積む機会になり、21番手タイムを記録した。

決勝レースは予定通り14時30分のスタートに向けて、各車がグリッドに整列したが、雨と霧の影響でスタートは順延されることに。14時48分にセーフティカー先導で動き出した。しかし、天候状況が思わしくなく、すぐに赤旗が出されてレースは中断。15時20分に中止が発表された。2周回を完了していないため、規定によりレースは不成立となった。今後どこかの大会で代替開催される可能性も残されている。

次戦の鈴鹿大会では、ここまで積み重ねてきたものを存分に発揮し、まずは予選Q2進出を目指す。





Driver

小林可夢偉

フリー走行から予選に向けてセッティングを変えたことが上手くいかなかったという感じでした。決勝日は朝から雨ということで、鈴鹿でのテストと開幕戦のもてぎで調子が良かったセッティングを試しましたが、それが上手くいかず苦戦しました。
 今まで学んできたことを鈴鹿ではもう少し活かせるのではないかなと思っています。まずはフリー走行の走り出しから、良いところにつけられるようなクルマにしていければ、予選でも戦えると思います。方向性も見つかりつつあるので、鈴鹿では良い戦いをしたいなと思います。



Driver

小林利徠斗

フリー走行ではバランスがあまり良くなかったですが、そこから予選に向けてだいぶ良くなって、Q2に進出できるだけのクルマのポテンシャルはあったと思います。ただ、クルマの挙動が大きく変わって、そこに自分が合わせきれなかったです。ここまで積み重ねて来ているので、この調子で次戦の鈴鹿に臨むことができれば、Q1を突破できると思っています。雨のセッティングに関しても発見がありましたので、そこも今後に向けて良い学びになったと思います。



Team Director

片岡龍也

走行ごとに、良くなりそうなヒントは見つかるのですが、その発見がワンテンポ遅れているというのが正直なところです。今まではFP1が終わってから気が付いていたものを、FP1の最中に見つけられるようになれば、もっと良くなると思っています。
 利徠斗に関しては微調整を重ねていったもので予選を走ってQ2までもう少しというところでした。可夢偉に関してはセッティングの変更が裏目に出ましたが、ひとつひとつ積み重ねている段階なので、今やっていることが中盤戦以降で必ず生きてくると思います。今回の学びを次戦に繋げていきたいです。

